

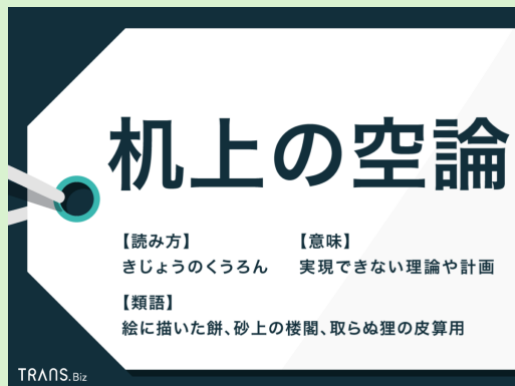
今日の箇所は、前回に続いて、イエス様の格言に似た、たとえ話を集めた(?) 箇所になります。

ルカは、今日の 46 節から 49 節の箇所では、前半は、たとえ話と言うより、「**主よ主よと、口ではイエス様、イエス様と言っても、たよってばかりで？自分では指一本動かさない、『行わない』 実行しない人**」の問題を述べています。

後半でも主旨は同じですが、ここでは、建物の土台との関係の例話から、ほぼ同じ主旨で語られます。すなわち、土台が、しっかりしていない建物は、どんな立派な建物でも、ちょっと洪水がおそえば、簡単に流されてしまうと言う例えをあげて、この文脈で言うと、土台とは行いで、行いを伴わない歩みは、聖書から来た、格言とも言われます。



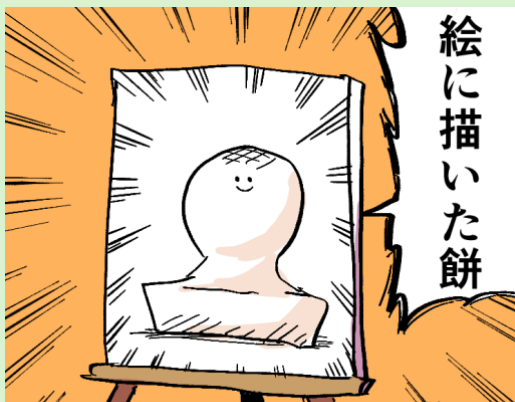
ただ、日本にある格言で「**砂上の楼閣**」という場合は、楼閣とは、高い建物一般を言う、昔の言い方で、土台が、しっかりしてないところに、そんな高い建物など、建てたら、傾くか、倒れてしまうという例をあげて、聖書での土台は、地道でも、見えない努力、たとえば、しっかりと土台を掘って、重い石を運んで、土台を作る、その後は、埋めてしまって、建物を建てるわけですから、土台作りは見えないのですが、そんな見えない、地道な行いこそが大事だと言われるのです。



このような、何も聖書によらなくても？と思われる、あるいは、聖書から、一般的な格言にまでなって伝わっているという順番なのか、分かりませんが、このように、いくつもあります。

たとえば、「**机上の空論**」この説明にあるように、実現できない理論や計画だと。それは、絵に描いた餅、絵空事とも言われると。

絵に描いた餅とは、理論上の餅は描けても、実際に食べる餅が出されるのとは



絵に描いた餅

絵空事

【読み方】

えそらごと

【類義語】

空理空論、砂上の楼閣

【意味】

本当には無いもの・空想の世界でしかあり得ないものを表す言葉

天と地の差があると、これは、10の理論より、1の実行、実物のほうがすぐれているという意味ですね。

もういいでしょうけど、「絵空事」ともいって、これについての説明に、砂上の楼閣と、またありますね。

だから、私たちは、イエス様が言わんとされていることは、ある程度、よく理解出来るのです。イエス様が、例話で話すというのは、そういうことで、まず、ある程度、わかるということが大事です。いきなり、天の知恵、奥義で話しても、理解出来ませんが、ある程度、程度を落としてと言いましょか、入口として、わかりやすく話すことで、もっと聞こう、聞きたいと思う

わけですから、そこが大切なわけです。ただ、今、お話したように、それは、入口でありまして、イエス様は、もっと深く、考えて欲しい、この分かりやすい例話を、ジックリと、黙想して、真理に、たどり着いてほしいと願っているわけです。

では、いった、そのたどり着いて欲しい内容というのはどういうことなのでしょう。そんなことを考えながら、今一度、短い箇所ですので、全部読んでみます。

「6:46 なぜあなたがたは、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。6:47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行う人がみな、どんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。6:48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せても、しっかり建てられていたので、びくともしませんでした。6:49 しかし、聞いても行わない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家はすぐに倒れてしまい、その壊れ方はひどいものでした。」

まず、最初から言ってきましたが、**土台**とは、**行い**だということでした。

土台=行い。イエス様は、こう言われました。

「6:47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行う人がみな、どんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。6:48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、家を建てた人に似ています。」と。

行いが伴う人は、土台のしっかりした建物だと。



ですから、砂上の楼閣の反対ですね。砂上、すなわち、砂の上に建てた建物は、地震で傾き、洪水で倒れるのです。砂、その意味は、聞いても行いが伴わない人の例です。そして、逆に、岩は、行いです。行いを伴って、イエス様に、神さまに、聖書に従える人の例えです。

ちなみに、山上の垂訓では、マタイによる福音書の同じような例えも、引用しておきます。

マタイの福音書「7:24 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。」

もう少し、詳しいですね。

岩が土台であれば→「雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れません」

土台が砂であれば→「砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいもの」

そして、マタイでも、その土台とは何か、それは、行いであると、イエス様が明確に言われたことを記しています。

マタイ「7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人」だと。

岩の土台とは、行いであると。

さて、みなさんは、ここまで聞いてきて、どのように教えられたでしょうか。

行いが大切だなと思われたと思います。信仰生活を考えた方もおられると思います。それは、まさにイエス様の、趣旨です。イエス様の言わんとするところです。

信仰生活は、まずは、10 聞くよりも、(まずは)1 行うことだと。これも格言でありますね。

「小事が大事を生む」と。ただ、この格言も、聖書から来たとも言われます。

このルカの福音書「16:10 最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実であり、最も小さなことに不忠実な人は、大きなことにも不忠実です。」です。

みなさんは、ここまで、お聞きになって、もう十分理解したと思われると思います。ただ、ルカの福音書では、マタイでも、ルカでも言う、聞いて行わないのは、

なぜなのかという点に、なぜ、人は、聞いて行わない人が出てきてしまうのかという点について、ルカの非常に深い、掘り下げがあるように思います。それは、ルカの福音書の、他の福音書にない掘り下げ、違いだとも言えるのかも知れません。それは、聞くだけで行わないのは・・・と、まるで、聞くだけの人はダメみたいな事になっていますが、ルカは、問題は、行いそのものよりも、その聞き方に問題が存在するのだと、そう、イエス様の言葉から聞き取っていると言うことです。

この7章が終わり、この山上の垂訓の話しの続きの後、8章のところで、弟子達が、今日の格言を含めて、この一連の、行いこそ大事という話について、彼らなりに考えて、たとえば、他にも似たような話はたくさんありますが、イエス様、イエス様が一番おっしゃりたいことは何ですか？と聞いてくれているのですね。さすが、弟子達だと思いますが、そのときに、イエス様が何と答えられたかを、ルカは記録してくれているのです。次の8章に入りますが、この箇所です。

「8:9 弟子たちは、このたとえがどういう意味なのか、イエスに尋ねた。」

すると、イエス様は、道ばたに落ちた種が、悪魔が来て、実を結ばないうちに、行いとして現れないうちに、その種を啜えて飛び去ってしまうかのように、御言葉が残らない人の例をあげて・・・それは、岩場か、イバラかと、そんな例をあげながら、また、燭台(ロウソク立て)などの例も加えながら、こう、イエス様は言われたというのです。すなわち。

「8:18 ですから、聞き方に注意しなさい。というのは、持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っていると思っているものまで取り上げられるからです。」

聞くばかりで、行いが伴わないという言い方をしてきましたが、問題は、行いが伴わないという、そこじゃなくて、聞くばかりのところ、聞き方の問題なのだといイエス様は言われたと言うことなのです。

一見、禅問答のようではありますが、聞いてばかりはダメだ、まずは、実行第一だ。聖書の学びはそこそこにして、まずは、貧しい人のところに出かけて行って、何か、施しをしよう、聖書を読むより、一通のはがきを出して、彼を励まそう。それこそ、信仰者のすべきことだと、結果それで、いいのですが、ルカは、イエス様の言葉を引用しながら、いやいや、と言っているのです。

むしろ、聖書の言葉が理解出来るまで動くなと、じっくり、腹の底に、御言葉が下りるまで、御言葉に、ひいては、イエス様のお言葉に感動して、イエス様が言われることだから、じゃあ、動いてみようと思う、心、信仰が湧き上がるまで、ジックリと、御言葉から聞けと言っているということです。少し強調して言えば。

もっと言えば、軽々に動くな。**じっくり、御言葉(聖書)に聞けば、あなたが動かなくても、御言葉があなたを動かして下さる。御言葉には、力がある。**

そういう御言葉への信頼をもって、聞けと言っていると言うことです。動くな。聞けと。じっくりイエス様に聞きなさいと。それが、ルカが私たちを導いてくれている、この福音書の書き方だとも思うのです。

今日の結論。

じゃあ、どうしたら、**砂上の楼閣**でない信仰生活、意味のある人生を歩めるか、それは、聖書を読むこと、しかも、行動に実を結べるほどに、じっくりと読み、黙想して、歩むことということになるのでしょうか。まあ、言うに安し、先生はどう？ということになるでしょうが・・・

信仰者が集まって、祈り、考え始めると、良い結果が出るよと言う話をしておきましょうか。今年度のJ E C A(日本福音教会連合)の中部地区の秋の集まりを、豊明と、栄聖書教会と、朝日聖書教会が担当することになって、若い人達と毎月集まっています。先月の話し合いで、なかなか、場所が決まらず、数回、話しを重ねていましたが、誰の提案だったか、豊明文化会館はどうかという話しになって、じゃあ、早速聞いてみようとなって、電話すると、11月3日は空いているというのです。どうするかという話しになって、まずは、行動に起こそうと、今から、見に行こうとなったのです。そして、その結果、7万なにかしかを払って、その場で予約を取ったのです。ただ、プロジェクターが使えないということがわかって、ならば、東郷町のイーストプラザいこまい館も予約しようとなって、当日、抽選だとい



うことで、行って、今回、当たって、そこに決まりました。そして、それぞれが、どんな内容にしようかと話しているうちに、集会と言うより、祭りだ、主の祭りだ、フェスティバルだと、若い人達の希望で、こうなりました。

オータムフェス 2026『この日を楽しもう』
メッセンジャー：早川恵三！

先に行動していたら、牧師達の話し合いで、去年と同じように、場所を変えてとなったかもしれない。しかし、今回は、最初から、何が、これからの中部地区の宣教かと、考え祈りながら、そこをジックリと、祈り、突き詰めました。まだ、結果は出ていませんが、先に行いではなく、先に祈り、主に聞き、若者達に聞くことを大切にしたら、これが結果です。続けてお祈り下さい。

さて、今週の歩み。御言葉に聞き、私たちが愛する主にこそジックリと聞き、「わたしのことばを聞き、それを行う」歩みを、ここから歩む、私たちキリスト者の歩みとしたいと願います。